

第2学年 国語科指導案

平成24年11月3日(土)5校時
1組 28名 授業者 宮城 優子
2組 29名 授業者 山田 真理子
3組 28名 授業者 宇茂佐 武
4組 29名 授業者 幸良 望

1 単元名

かたかなの広場

2 単元目標

片仮名を使って、「何が」「どうする」が整った文を書くことができる。
どんな言葉を片仮名で書くかを知り、文の中で使うことができる。

3 単元について

(1) 教材観

たいていの片仮名を読み書きできるようになっているが、平仮名に比べて使用頻度が少ない片仮名は意識的に書く場を用意しなければ、十分に定着を図れない。この機会を利用し、一文字ごとの正しい形を再認識させるとともに、文中で適切に使用することに慣れさせたい。

本単元では、片仮名の使い方を指導する前提として、どのような言葉が外来語や外国の固有名詞であり、どのような言葉が擬声語であるかといった語彙の種類についても意識させたい。

片仮名を書く言葉について考える契機として、いろいろな言葉に触れ、言葉について考えることは、単に表記上のルールの習得ということに終わるのではなく、言葉についての児童の興味と関心を広げていくことにつながる。新聞を活用することで、児童の語彙を拡充する機会となるであろう。

(2) 児童観

短文を書く(何がどうする/何が何をどうする)ことは随所で経験しているうえ、片仮名の大体を読んだり書いたりできるように学習してきている。

しかし、日記や作文などで、片仮名で書く言葉を平仮名で書いたり、長音や促音の表記のしかたを間違えたりすることがある。また、個人差も大きい。

新聞を扱った学習活動としては、生活科「新聞をたのしもう」の中で、自分の好きな写真を切り取り、どうしてその記事が気に入ったのか理由や感想を書く活動を行っている。また、四コマ漫画を並び替えたり、読んでの感想を書いたりしており、新聞に慣れ親しんでいる。

(3) 指導観

「何が」「どうする」という主語と述語の呼応関係がしっかりした文を、片仮名を使って書けるようにしていく。

「かたかなで書くことば」では、まず、「どうぶつのなき声」と「いろいろなものの音」は、いろいろな音や鳴き声を考えさせ、実際に片仮名で書かせる。長音(伸ばす音)の記号などにも注意させたい。「外国から来たことば」や「外国の、国の名前や土地の名前、人の名前」は、もともと外国語だったものとしてまとめる。

発展学習として、片仮名の言葉を探させたい。新聞を活用することで普段聞き慣れた片仮名だけではなく、さまざまなジャンルの片仮名に触れることで、児童の興味・関心につながり、語彙を広げることにつながると考える

「うるま市実践9項目」との関わり

- ・ ねらいを明示した授業の実践()【導入におけるめあての確認】
- ・ 言語環境の整備と言語活動の充実()【新聞から片仮名探し・発表】
- ・ 習得したことを活用する場の設定()【短文作り】
- ・ 自己評価の実施()【まとめにおける振り返り】
- ・ 家庭学習と授業の連動 【授業終盤、家庭学習での取り組みへの声かけ】

4. 本時の学習(3/3時間)

(1) ねらい

- ・ 片仮名で書く語に興味をもち、楽しみながら新聞から片仮名を探すことができる。
- ・ 片仮名を使って、主語・述語の整った文が書ける。

(2) 授業仮説

- ・ 新聞を通して普段使う身近な片仮名とは違う片仮名に触れることで、興味をもち楽しんで取り組むことができるであろう。
- ・ 探し、気に入った片仮名を使うことで、進んで短文を書くことができるであろう
- ・ 前時の学習を想起し確認することで、進んで短文を書くことができるであろう。

(3) 展開

	学習活動	指導上の留意点(実践9項目)	評価
導入 5分	<p>(1) 今日の学習のめあてを確認する。</p> <p>・新聞からカタカナをさがそう。 ・さがしたカタカナをつかって、たん文を書こう。</p> <p>・片仮名で書く言葉を確認する。 どうぶつのなき声 いろいろなものの音 外国から来たことば 外国の、国の名前や土地の名前</p>	<p>・今日の学習のめあてと見通しを持たせる。 ねらいを明示した授業の実践</p> <p>・黒板に掲示しながら4つの仲間をおさらいする。</p>	
展開 35分	<p>(2) 新聞から片仮名を見つけ赤鉛筆などで線を引く。 サッカー、コマーシャルなど</p> <p>(3) 見つけた片仮名をワークシートに書き写す。</p> <p>(4) 自分が書いた片仮名を読んだり、片仮名で書く言葉の ~ のどれに当てはまるか考えたりする</p> <p>(5) 書き出した片仮名の中から1~2つ選んで短文作りをする。</p> <p>(6) 発表する。</p>	<p>・1人に1枚の新聞を配布。 ・同じ片仮名には線を引かないことを知らせる。</p> <p>・読みにくかったり、 ~ のどれに当てはまるか分からないときは、隣と相談してもいいことを知らせる。 言語環境の整備と言語活動の充実</p> <p>・前時の教科書の挿絵を使って書いた短文作りを想起させ、主語と述語を考えて作るように指導する。 習得したことを活用する場の設定</p>	<p>・進んで片仮名を探すことができる。</p> <p>・主語、述語の整った文が書ける。</p>
まとめ 5分	<p>(7) 今日の学習を振り返り、自己評価する。</p>	<p>・めあてのそばに書かせる。 自己評価の実施</p> <p>・家庭学習で「新聞からカタカナさがし」に取り組むように知らせる。 家庭学習と授業の連動</p>	

(4) 評価

- ・片仮名で書く語に興味をもち、楽しみながら新聞から片仮名を探すことができたか。
- ・片仮名を使って、主語・述語の整った文が書けたか。